

武里南部地域 学校再編 通信 第2号

第2回学校再編計画地域検討会を開催しました

武里南部地域学校再編計画（案）について意見交換を実施

平成28年5月23日（月）、中野中学校において、第2回学校再編計画地域検討会を開催し、第1回地域検討会であがった意見を取り入れた「学校再編計画（案）」について、意見交換を行いました。

1. 武里南部地域学校再編計画（案）について

●武里南部地域学校再編計画（案）から主な内容を紹介します。

<武里南部地域の学校再編>

◆学校位置

谷原中学校と中野中学校を廃止し、現中野中学校敷地内に新たな中学校を設置する。
なお、設置位置については、通学距離、通学の安全確保、学区全体における学校位置を比較検討し、総合的に判断した。

◆開校の目標時期 平成31年4月1日

◆学校名

統合後の学校の名称は、公募等により選定

◆施設整備

現中野中学校の既存施設に対し、老朽化への対応など、必要な改修を行う。なお、特色ある学校づくりを進める中で、新たな施設整備が必要となった場合、費用対効果、学校教育の将来的展望などを踏まえた検討を実施する。

◆登下校の安全対策

現在の中野中学校周辺の登下校時の交通安全対策については、通学路の見直しを含め、必要な措置を講じる。

◆通学区域

統合後の通学区域（以下、「学区」という）は、武里南小学校及び武里西小学校の学区とし、小中一貫教育の推進のため、子どもたちが同一中学校へ通学できるよう学区を変更する。
なお、備後小学校の一部の学区の進学先が中野中学校となっているが、小学校からの進学先を同一中学校とし、小中間の連携を推進するため、武里中学校の学区に編入する。ただし、現に通学している兄弟姉妹との関係及び調整区域※から通学している児童がいることから、経過措置を設ける。

※調整区域…学校を選択できる地域

<武里南部地域の跡地利用の方向性>

本市のまちづくりの視点から、より効率的な方法を多面的に検討します。また、地域の方々の活動の場としての利用など、地域の活性化・発展のために有効な活用方法についても、市役所内に検討組織を立ち上げ、全庁的に検討する予定です。

<学校再編計画の実施体制について>

学校再編計画策定後は、学校名や学校の運営方針など、開校に必要な事項について決めていく必要があります。そのために、地域、PTA、学校等の代表者からなる新たな組織を立ち上げ、地域からの意見を取り込みながら、検討を進めていく予定です。

【会議でいただいた主な意見や内容】

Q. 計画(案)では、中学校の統合に際して、備後小学校児童の進学先を武里中学校1校とするとあるが、このことを前提にアンケートを実施するのか。また、アンケート調査の結果、相反する結果も想定できるが、どのようなアンケートを考えているのか。

A. 備後小学校の児童の進学先が2つの中学校（武里中・中野中）に分かれているため、小学校と中学校が連携した小中一貫教育の推進が困難な状況です。このため、進学先を武里中学校の1校とし、小中一貫教育を推進したいと考えています。アンケート内容については、この内容も含め、今後の学区再編へ生かせる内容となるよう検討していきます。

Q. 備後小学校の児童は、平成31年度以前から武里中学校へ通えるなど、統合前の学校自由選択制について検討しているのか。

A. 統合前の進学先に関しては、今後予定しているアンケート調査結果を踏まえて、検討していきます。

Q. 生徒の精神的不安軽減や心のケアは重要と考えているが、どのような対応を考えていくのか。

A. 学校の統合を進める上では、児童生徒及び教職員の不安軽減や心のケアは重要なものと考えていますので、十分に配慮しながら進めていきます。

Q. 平成30年4月の開校はできないのか。

A. 教育委員会では、学校開校に向け取り組まなければならない様々な事項を踏まえ、スケジュール等を検討してきました。この結果、開校目標時期を平成31年4月としたものです。それらを説明できる資料を次回会議において示してまいります。

2. 次回の第3回武里南部地域学校再編計画地域検討会について

第2回地域検討会での意見等を踏まえた武里南部地域学校再編計画（案）について、意見交換などを行います。

日時：平成28年6月29日（水） 13時30分から

場所：中野中学校 図書室

「武里南部地域学校再編計画」は、地域検討会の意見交換を踏まえ作成した「計画（案）」に関し、教育委員会会議や学区審議会などで審議が行われ、平成28年9月ごろ、策定となる予定です。

2校を統合することで、どんなメリットがあるの？

谷原中学校、中野中学校は、生徒数の減少により、適正な学校規模が確保することが困難な状況が続いています。学校規模が小さいことで、生徒一人ひとりの特性を把握した指導ができ、活躍の場が多くなるというメリットはありますが、2校を統合し、新たな中学校を「適正規模校※」とすることで、

- ・様々な友達と関わることで、互いに切磋琢磨し刺激し合えるようになること
- ・人間関係の固定化を防げること
- ・教員が多くなることで、指導体制の充実が図れること
- ・学校行事における多様な種目や演目の設定ができ、部活動の種類の選択肢が増えること

など、生徒増によるスケールメリットを生かした教育が可能となります。

部活動を例に挙げると、新たな中学校は、武里中学校とほぼ同規模の生徒数になることが見込まれていることから、現在の武里中学校と同規模の部活動が展開でき、充実が図れるものと考えています。

＜参考：平成28年度の部活動設置数＞

【谷原中】運動部7、文化部2、【中野中】運動部10、文化部3、【武里中】運動部14、文化部6

※適正規模校……「春日部市小中一貫教育及び学校再編に関する基本方針」(平成25年9月策定)において、学校の全学級数が12～24学級の学校を適正規模校としています。

